

透析患者の体重増減への影響からみた TG, ChE, nPCR, Alb, GNRI の比較評価

中根真利子¹⁾ 高橋恵理香¹⁾ 田中揚子⁴⁾ 坂井祥平²⁾
野溝明弘⁴⁾ 大下裕世³⁾ 河野啓一²⁾ 平田聖文⁴⁾

(医) 偕行会 名古屋共立病院¹⁾

(医) 偕行会長野 駒ヶ根共立クリニック²⁾

(医) 社団偕翔会 城北共立クリニック³⁾

(医) 偕行会岐阜 中津川共立クリニック⁴⁾

目的

低栄養状態を早期に発見するために注目すべき
栄養評価指標を検討した。

方法

1. 過去2年間の期間においてDWtの操作なく2ヶ月間以内にCTRが3%以上上昇(Wt減少)した期間があり、かつ、同様に3%以上低下(Wt増加)した期間のある通院透析患者60例を抽出した。

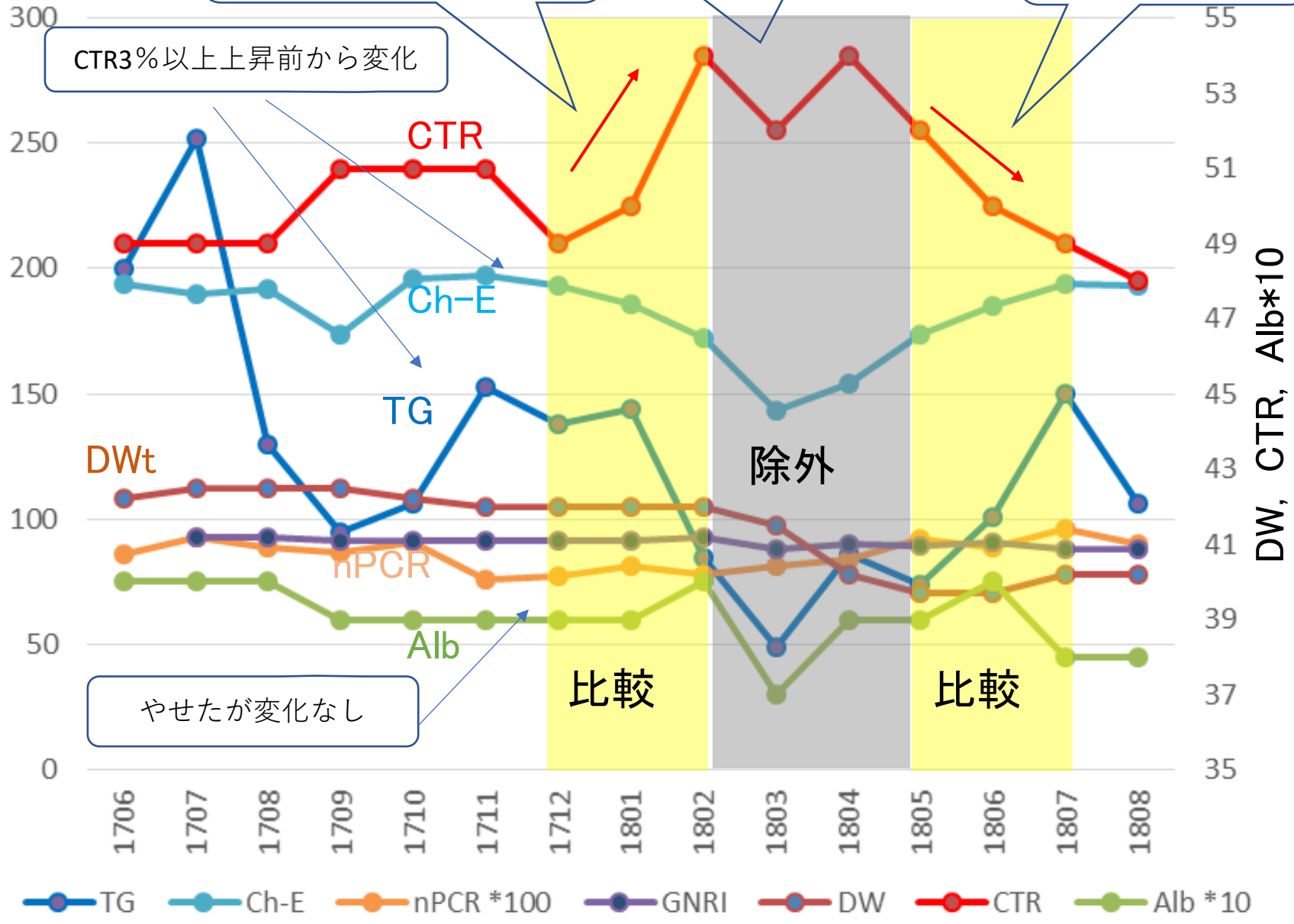
対象(60例): 年齢 72.0±9.8才
透析歴 8.6±5.8年
男性 33例 女性 27例

方法

この60例についてCTR上昇期とCTR低下期の
CTR変動前後におけるTG, ChE, nPCR, Alb,
GNRI の変化について比較した。

2. 上記60例のうち、DWtとCTRに連動した変化がみられない期間が8ヶ月間以上認められる24例について、各栄養マーカーとCTRとの相関について調べ、その相関係数の比較により、どのマーカーが痩せ・太りに強く影響しているかを比較した。

TG, Ch-E, nPCR*100, GNRI



CTR3%以上上昇 (やせた)

CTR上昇後DW tを下げて いるので除外

CTR3%以上下降 (太った)

CTR3%以上上昇前から変化

除外

比較

比較

やせたが変化なし

TG Ch-E nPCR * 100 GNRI DW CTR Alb * 10

結果

CTR上昇期(痩せ)		
検査項目	測定値	Wilcoxon t-test
CTR	49.4±0.5 → 53.1±0.5	P=9.5 × 10 ⁻¹⁰
TG	124.2±11.0 → 100.1±7.1	P=6.1 × 10 ⁻⁶
TG前月	123.5±8.8 → 113.1±9.1	P=0.011
ChE	243.6±9.5 → 233.6±9.4	P=0.0003
ChE前月	245.7±9.4 → 238.9±9.5	P=0.013
Alb	3.59±0.03 → 3.59±0.03	ns
GNRI	96.99±0.97 → 96.80±0.96	ns
nPCR	0.82±0.02 → 0.79±0.02	ns
nPCR前月	0.82±0.02 → 0.81±0.02	ns
CRP	0.32±0.06 → 0.50±0.17	ns

n=60

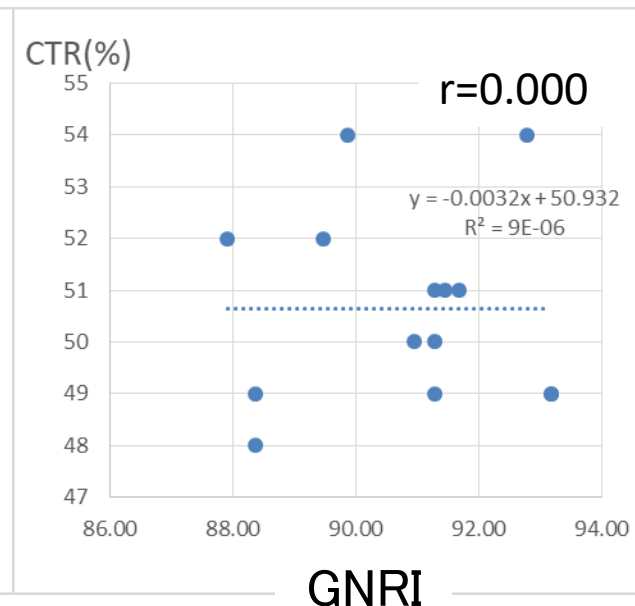
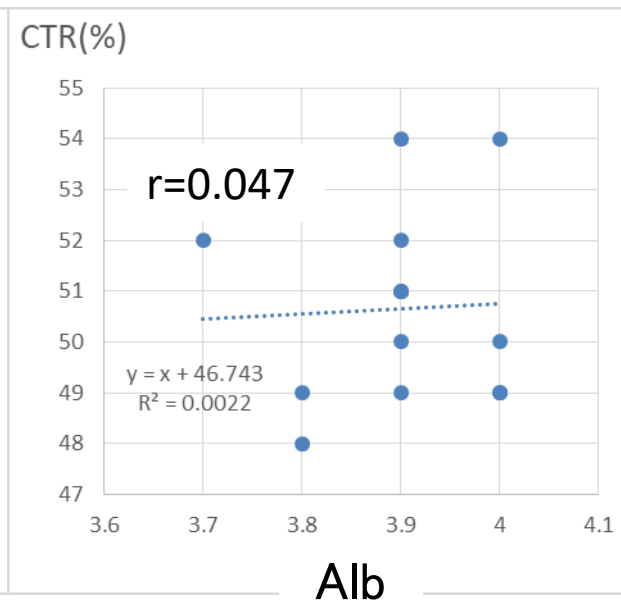
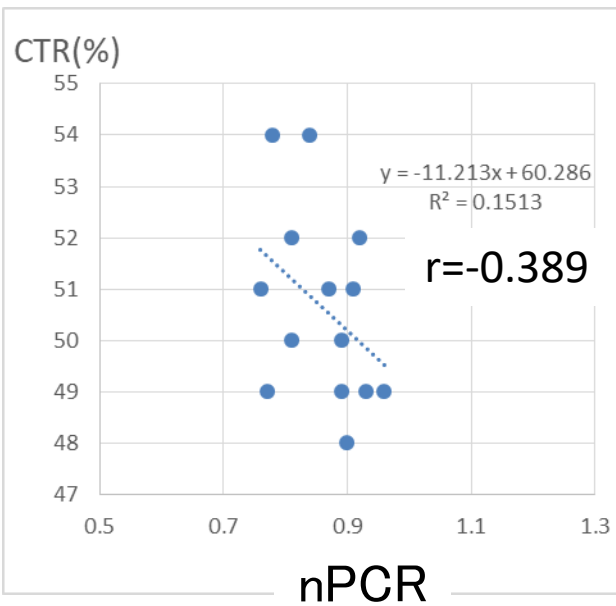
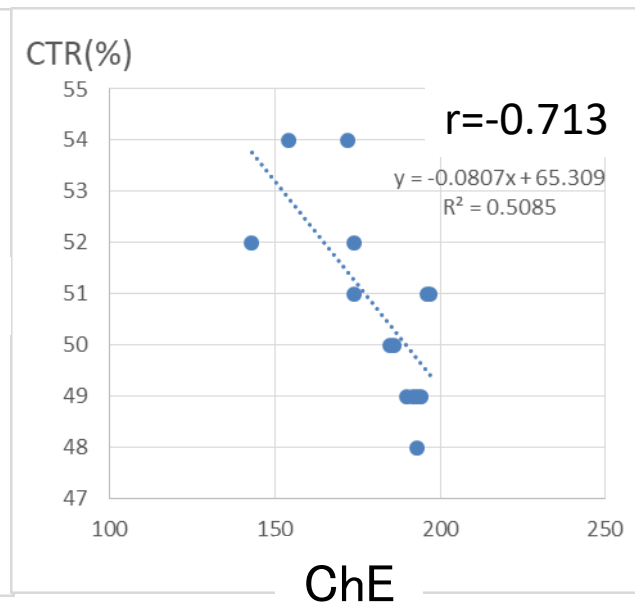
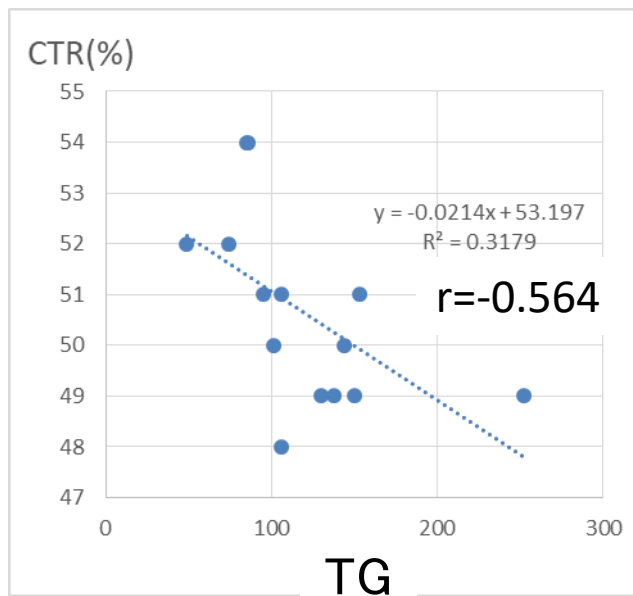
CTR低下期(太り)

検査項目	測定値	Wilcoxon t-test
CTR	52.1±0.5 → 48.6±0.4	P=8.8 × 10 ⁻¹⁰
TG	105.0±7.7 → 117.6±8.3	P=0.027
TG前月	102.4±7.8 → 108.9±7.8	ns
ChE	239.6±9.5 → 243.8±9.3	ns(P=0.055)
ChE前月	236.4±9.0 → 241.0±9.2	ns(P=0.062)
Alb	3.58±0.03 → 3.59±0.03	ns
GNRI	96.17±0.97 → 96.41±0.95	ns
nPCR	0.84±0.02 → 0.87±0.02	P=0.024
nPCR前月	0.82±0.02 → 0.85±0.02	P=0.037
CRP	0.25±0.04 → 0.33±0.07	ns

n=60

各栄養マーカーと CTRとの相関

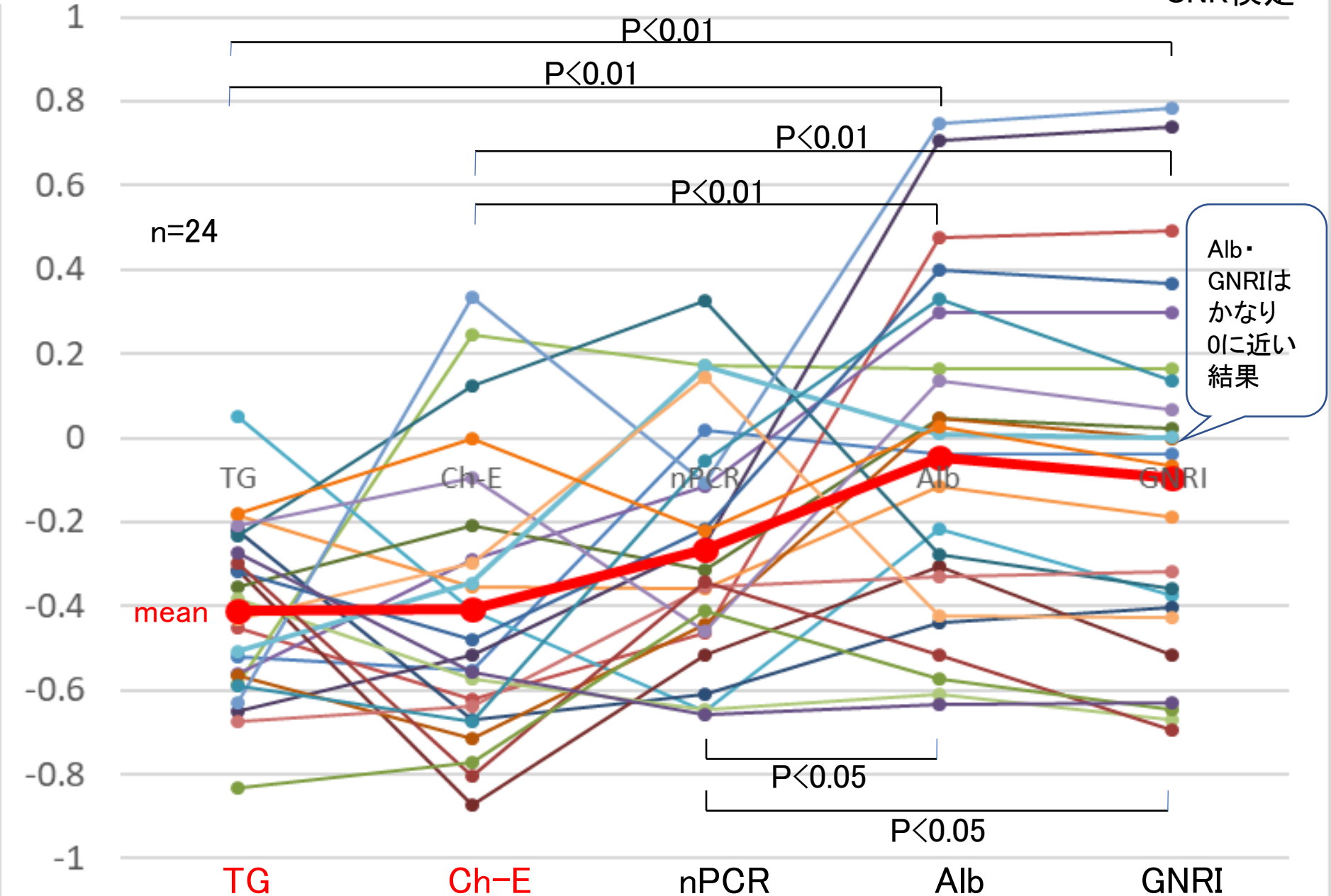
(症例1)



各栄養マーカーとCTRとの相関係数の比較

相関係数 r

SNK検定



結語

- 透析患者の低栄養予防には 早期に栄養介入していくことが重要である。
- 体重減少と関連する 定期採血における指標があれば、栄養状態低下を より早期に発見できる可能性が高いと考える。
- 今回 体重の変化からみた栄養マーカーの比較では、従来栄養の指標とされていた Alb や GNRI には相関は認められなかった。
- TG と ChE は体重の変化と有意な負の相関が認められ、採血結果からみた**低栄養の早期発見には TG と ChE の変化が重要である**ことが示唆された。

日本透析医学会 COI 開示

筆頭発表者名： 中根 真利子

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある
企業などはありません。